

介護保険認定調査用

聞き取りメモ

調査日時 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 時 _____ 分 ~

対象者 _____ 様

経験の浅い調査員でも、調査定義にそった調査・聞き取りができるよう作成しました。

記載された定義に注意し、調査対象者の状況を聞き取ってください。

調査票を作成する上で、不明な点や迷うことなどがありましたら、下記へお気軽にお問い合わせください。

相模原市 介護保険課 2019年4月改訂版

問い合わせ先 042-769-8342

(認定班 調査員指導担当あてにご連絡ください。)

<概要のメモ欄>

調査場所	自宅 自宅外 ()
利用施設	介護老人福祉施設 介護老人保健施設 介護療養型医療施設 介護医療院 認知症対応型共同生活介護適用施設(グループホーム) 特定施設入居者生活介護適用施設 医療機関(医療保険適用療養病床) 医療機関(療養病床以外) その他の施設
所在地	〒 電話
利用サービス	訪問介護(回/月) 訪問入浴介護(回/月) 訪問看護(回/月) 訪問リハビリテーション(回/月) 居宅療養管理指導(回/月) 通所介護(回/月) 通所リハビリテーション(回/月) 短期入所生活介護(回/月) 短期入所療養介護(日/月) 特定施設入居者生活介護(日/月) 福祉用具貸与(品/月) 福祉用具販売(品/6か月) 住宅改修(あり・なし) 夜間対応型訪問介護(日/月) 認知症対応型通所介護(日/月) 小規模多機能型居宅介護(日/月) 認知症対応型共同生活介護(日/月) 地域密着型特定施設入居者生活介護(日/月) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(日/月) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(回/月) ②看護小規模多機能型居宅介護(日/月)

項目	評価軸	定義	調査結果
1-1 麻痺	有無*能力	自動で規定の位置まで挙上・静止保持ができる <input type="checkbox"/> ない できない <input checked="" type="checkbox"/> 該当部位をチェック *注意* 1-2で膝の伸展に拘縮がある場合、下肢の確認動作の位置は床と水平まで挙上、ではなく他動で最大限動かせる高さまでの挙上	上肢：右 左 前 横 下肢：右 左 その他：部位()
1-2 拘縮	有無*能力	他動で(調査員が動かして)規定の動作ができる <input type="checkbox"/> ない できない <input checked="" type="checkbox"/> 該当部位をチェック *注意* 股：2つの確認動作 足の付け根を90度に曲げる「屈曲」 両膝の間を25cm開く「外転」 (両側合わせて25cm確保できればよい) 膝：2つの確認動作 90度に曲げる「屈曲」 まっすぐに伸ばす「伸展」 確認動作が2つともできる <input type="checkbox"/> ない どちらか、または両方できない <input checked="" type="checkbox"/> 該当部位をチェック	肩：右 前 横 左 前 横 股：屈曲 右 左 外転 膝：右 屈曲 伸展 左 屈曲 伸展 その他：部位()
1-3 寝返り	能力	左右どちらかに身体の向きを変え、安定した状態になることができるか。 *仰向けになれない場合は、側臥位からうつ伏せになれるか。 *ベッド面等に加重して支える場合は「つかまれば可」	できる つかまれば可 できない
1-4 起き上がり	能力	ふとんをかけないで、寝た状態から上半身を起こせるか *常時ギャジアップしている場合は、その状態からの能力を評価 *ベッド面等に加重して支えて起きる場合は「つかまれば可」	できる つかまれば可 できない
1-5 座位保持	能力	座位の状態を10分間どうやって保持できるか。 *日頃どの様に座っているか、ではなく日頃の心身の状態で10分座位保持する能力を評価 *ソファでなく椅子で動作確認するとよい。 *聞き取りでは、食事時や身体を洗う時等、背もたれがなくても10分座れるか聞く。 *介護者が身体を支えて10分座位が保てれば「3.支え必要」 *椅子でなくても、ギャジアップしたベッドの背や、車椅子の背にもたれてできる場合「3.支え必要」	できる 自分で支えれば可 支え必要 (背もたれにもたれ/介護者が支えられる) できない
1-6 立位保持	能力	平らな床の上で立位を10秒間程度保持できるか。	できる 支え必要 できない

項目	評価軸	定義	調査結果
1-7 歩行	能力	5 m、継続して歩けるか * 介助者が支えてできる場合は「2.つかまれば可」 * リハビリでしか歩行していない場合「3.できない」	できる つかまれば可 (介助者が支えるのも含む) できない
1-8 立ち上がり	能力	膝がほぼ直角の状態からの立ち上がり * ソファでなく椅子で、身体の前に机がない状態(身体の横が良い)で確認するとよい。	できる つかまれば可 できない
1-9 片足立位保持	能力	左右いずれかの足を1秒程度上げ保持できるか	できる 支え必要 できない
1-10 洗身	介助の方法	浴室内で手ぬぐい等に石鹸等をつけ全身を洗うこと 調査日から過去1週間の状況で評価 * 洗髪は含まない * 浴室内での洗身行為に対する介助。浴室の外で見守る等は含まない * 清拭のみの場合は「行っていない」	介助されていない 一部介助 全介助 行っていない
1-11 爪切	介助の方法	爪切の準備 爪を切る 切った爪を捨てる、のどこに介助を受けているか。 調査日から過去1か月の状況で評価	介助されていない 一部介助 全介助
1-12 視力	能力	調査方法 新聞程度の小文字 (テキストのページの数字で確認してもよい)が見えるか 1 m先の視力表の図が見えるか 目の前で視力表の図が見えるか * 重度の認知症等でどの程度見えているかわからない場合は「判断不能」を選択	普通 1 mで見える 目の前で見える ほとんど見えない 判断不能
1-13 聴力	能力	聞こえるかどうかの能力を評価 * 意味が分かるかではない	普通 やっと聞こえる (大き目の声で聞こえる) 大声聞こえる ほとんど聞こえない 判断不能

- ・調査日より過去1週間で、最も多く提供された介助、状況を選択。
(2-12外出頻度は過去1か月の頻度で選択、2-3は能力を評価)
- ・独居等で現状の介助が不適切な場合 適切な介助を選択し、特記事項には現在の介助状況と不適切な理由を記載

項目	評価軸	定義	調査結果
2-1 移乗	介助の方法	<p>・移乗の機会のない歩行レベルの方は、椅子等への着座のみで評価せず、 移乗行為が生じた場合を想定し、適切な介助を選択する。 ・清拭、体位・シーツ交換時に、でん部を動かす行為も移乗に含む。</p> <p>常時付き添っての指示、声かけ、椅子を差し入れる「見守り等」 身体を支える「一部介助」 身体を抱える「全介助」</p>	介助されていない 見守り等 一部介助 全介助
2-2 移動	介助の方法	<p>食事・排泄・入浴等で必要な場所へ、どのような介助を受けて移動しているか。 *屋内の状況で選択</p> <p>常時付き添っての指示、声かけ「見守り等」 身体を支える、手引き、車椅子で部分的に押す「一部介助」 身体を抱える、車椅子を目的地まですべて押す「全介助」</p>	介助されていない 見守り等 一部介助 全介助
2-3 えん下	能力	<p>食物等の飲み込みの能力（見守りされているかは関係ない）を評価。</p> <p>スムーズに飲み込める「できる」 飲み込みがよくない「見守り等」 飲み込みできない「できない」</p>	できる 見守り等 できない
2-4 食事摂取	介助の方法	<p>食卓に提供された後、 どのような介助を受けて食べているか。</p> <p>声かけ、皿の置き換え「見守り等」 小さくほぐす、スプーンに食べ物を乗せる、途中から口に運ぶ等 「一部介助」 全て介助者が口に運ぶ、経管栄養や点滴等を介助者が行う場合 「全介助」</p>	介助されていない 見守り等 一部介助 全介助
2-5 排尿	介助の方法	<p>以下を聞き取る 布下着、紙パンツ、パット、オムツ等、何を使っているか トイレ、ポータブルトイレ、尿器、カテーテル、ストーマ等 日中・夜間のそれぞれ (適宜頻度) 失禁の頻度 一連の行為</p>	介助されていない 見守り等 一部介助 全介助
2-6 排便	介助の方法	<p>(下衣の上げ下げ・陰部、肛門清拭・水洗・失禁時の交換等) のどこを介助しているか</p> <p>常時付き添って声かけ、指示、認知症の方の誘導等 「見守り等」 一連の行為の一部を介助者が行う「一部介助」 一連の行為全てを介助者が行う「全介助」</p>	介助されていない 見守り等 一部介助 全介助
2-7 口腔清潔	介助の方法	<p>物品準備、片付け、歯磨き、うがい、義歯の着脱、洗浄のどこに介助を受けているか。</p>	介助されていない 一部介助 全介助
2-8 洗顔	介助の方法	<p>物品の準備・洗顔や顔を拭く行為・蛇口をひねる・衣服の濡れの確認 のどこに介助を受けているか。</p>	介助されていない 一部介助 全介助
2-9 整髪	介助の方法	<p>物品の準備・髪をとかす等のどこに介助を受けているか。 *短髪等で整髪が必要ない場合は、頭を拭く行為で代替</p>	介助されていない 一部介助 全介助

項目	評価軸	定義	調査結果
2-10 上衣の着脱	介助の方法	常時付き添う・確認、指示をしながら着脱する 「見守り等」 服を構える、服を引き下げる、ズボン等を引き上げる等部分的な 介助、本人が腕や足を入れる等協力動作がある場合 「一部介助」 本人の協力なく、介助者がすべて行う 「全介助」	介助されていない 見守り等 一部介助 全介助
ズボン、 パンツ 等の着 脱			介助されていない 見守り等 一部介助 全介助
2-12 外出頻度	有無	<ul style="list-style-type: none"> ・調査日から*過去1か月の敷地外への30分以上の外出回数 *1か月の間に、状態が大きく変化(入院等)した場合は、変化後の状況で選択する。 ・どうやって行ったか(家族の車で付き添って など)も特記事項に記載 	週1回以上 月1回以上 月1回未満 外出内容・方法

項目	評価軸	定義	調査結果
<p>・調査日より過去1週間の頻度（3-1意思の伝達は調査日と日頃の状況、3-8徘徊、3-9外出して戻れない、は過去1か月の頻度）で選択。</p> <p>・3-8徘徊、3-9外出して戻れないの「有無」の項目の頻度 過去1か月では現れたことがない、ほとんど月1回以上の頻度では現れない「ない」 1か月に1回以上、1週間に1回未満である「ときどきある」 1週間に1回以上ある「ある」</p> <p>・調査日の状況と日頃の状況の両者を特記事項に記載する。</p>			
3-1 意思の伝達	能力	<p>会話に限らず、身振りや筆談等手段は問わない。 伝達する内容の合理性は問わない</p> <p>常時、誰にでも伝えられる 内容や状況（場面や体調）により、伝えられる時と伝えられない時がある 通常は伝えられないが、ある事柄や特定の人に対して、まれに伝えられる時がある 重度の認知症（又は意識障害等）により、全く伝えられない</p> <p>「できる」 「ときどきできる」 「ほとんど不可」 「できない」</p>	<p>できる ときどきできる ほとんど不可 できない</p>
3-2 日課の理解	能力	<p>毎日の日課（起床、就寝、食事等のおおまかな内容）について理解している。</p>	<p>できる できない</p>
3-3 生年月日をいう	能力	<p>生年月日か年齢のいずれか一方ができれば「できる」 生年月日と数日間のずれ、年齢は±2の誤差は「できる」 日頃の様子も合わせて評価する</p>	<p>できる できない</p>
3-4 短期記憶	能力	<p>面接調査の直前に何をしていたか思い出す能力を評価 立会い者がいない場合等、3点の物を使って確認する。 <実施方法> 身近な物、3品を見せ、何があるか復唱させる。 何がなくなったか聞くので覚えておくよう伝える。 見えない所にしまい、5分以上たってから2つを提示し、もう1つは何か答え てもらおう 日頃の様子も合わせて評価する</p>	<p>できる できない</p>
3-5 自分の名前をいう	能力	<p>姓もしくは名前のどちらか回答できれば「できる」 旧姓でもよい。</p>	<p>できる できない</p>
3-6 季節の理解	能力	<p>面接調査日の季節を答えることであり、月日を答えることではない。</p>	<p>できる できない</p>
3-7 場所の理解	能力	<p>施設・自宅・病院等の区別がつけば「できる」 所在地や施設名を尋ねるものではない。</p>	<p>できる できない</p>
3-8 徘徊	有無	<p>ベッドの上で這い回るなど目的なく動き回る行動を含む。 過去1か月の頻度で選択する。</p>	<p>ない ときどきある ある</p>
3-9 外出して戻れない	有無	<p>外出、居室、居室棟から出て自室や自宅に戻れない行動を含む。 過去1か月の頻度で選択する。</p>	<p>ない ときどきある ある</p>

4群の項目は、評価軸が全て「有無」です

各項目に該当する行動の調査日から過去1か月（その期間内に状態の変化があった場合は、状態変化後）の発生頻度で選択する
 過去1か月では現れたことがない、ほとんど月1回以上の頻度では現れない 「ない」
 月1～3回（週1回未満） 「ときどきある」
 週1回以上 「ある」

項目	定義・ポイント	調査結果
4-1 被害的	本人が、他者に何らかの被害を受けていると言う	ある ときどきある ない
4-2 作話	事実ではないことを言う 自分の失敗を取りつくりすることも含む * 4-1「被害的」とは区別する	ある ときどきある ない
4-3 感情が不安定	感情が不安定（悲しみや不安等）なために、 場面にそぐわない状況で 泣く・怒る・感情的にうめく等がある。	ある ときどきある ない
4-4 昼夜逆転	夜間に何度も目覚め、そのために 日中活動できない 。 日中行われる活動を夜間に行っている。	ある ときどきある ない
4-5 同じ話をする	しつこく同じ話をする。 * 性格や生活習慣によるものは含まない * 単語を繰り返すだけでなく、ある程度の内容（ストーリー）がある	ある ときどきある ない
4-6 大声を出す	周囲に迷惑になるような 大声を出す。	ある ときどきある ない
4-7 介護に抵抗	介助者の手を振り払ったりして介護に抵抗する。	ある ときどきある ない
4-8 落ち着きなし	家に帰りたいという意思表示と、落ち着きのない状態の両方がある こと。	ある ときどきある ない
4-9 一人で出たがる	一人で外に出ようとする行動があり、 目が離せない	ある ときどきある ない
4-10 収集癖	いろいろなものを集めたり、無断でもってくる	ある ときどきある ない
4-11 物や衣類を壊す	物を壊したり、衣類を破いたりする 壊れなくても破壊しようとする行動 周囲の状況に合致しない、物を捨てる行為も含む	ある ときどきある ない

項目	定義・ポイント	調査結果
4-12 ひどい物忘れ	物忘れによって何らかの行動が起こっているか、周囲の者が何らかの対応をとらなければならない状況。	ある ときどきある ない
4-13 独り言・独り笑い	意味もなく、独り言や独り笑いをする	ある ときどきある ない
4-14 自分勝手に行動する	明らかに周囲の状況に合致しない自分勝手な行動	ある ときどきある ない
4-15 話がまとまらない	話の内容に一貫性が無い、話題を次々と変える、問いかけに全く関係ない話を続ける等	ある ときどきある ない

- ・評価軸が「介助の方法」の項目は、調査日より過去1週間で、最も多く提供された介助、状況を選択。
- ・独居等で現状の介助が不適切な場合 適切な介助を選択し、特記事項には現在の介助状況と不適切な理由を記載
- ・評価軸が「能力」の項目は、調査時の状況と日頃の状況を合わせて評価する。

項目	評価軸	定義	調査結果
5-1 薬の内服	介助の方法	<p>薬や水を手元に用意する。薬を口に入れる、飲み込む（水を飲む）という一連の行為に介助を受けているか。 インシュリン注射、塗り薬等の内服以外は含まない。 *内服がない場合は、薬剤が処方されたと想定して選択 *あらかじめ薬局で分包されている場合は介助に含まない。</p> <p>飲む量の指示、飲む薬や水を手元に用意する、介助者が分包する等「一部介助」 薬を口に入れるまで一連の行為に介助が行われている場合。「全介助」</p>	介助されていない 一部介助 全介助
5-2 金銭の管理	介助の方法	<p>自分の所持金の支出入の把握、管理、出し入れする金額の計算の一連の行為に介助を受けているか。 *銀行に行き出入金を行う等、金銭の出し入れは含まない。 *現金を所持しなくとも、管理状況で選択する。</p> <p>少額を自己管理している。介護者が確認する。等「一部介助」 認知症等で計算管理ができない。「全介助」</p>	介助されていない 一部介助 全介助
5-3 日常の意思決定	能力	<p>日常生活状況のもとでは、意思決定できるが、ケアプランの作成、治療方針への合意等に指示や支援をしている。「特別な場合を除いてできる」</p> <p>日常生活状況のもとでも、ほとんど意思決定できないが、見たいテレビ番組、献立、着る服の選択等に関する意思決定をすることがある。二者択一程度はできる。「日常的に困難」</p> <p>意思決定が全くできない。意思決定ができるかどうかわからない。「できない」</p>	できる 特別な場合を除いてできる 日常的に困難 できない
5-4 集団への不適応	有無	<p>家族以外の他者の集まりに参加することを強く拒否、適応できない、明らかに周囲の状況に合致しない行動。 *性格や生活習慣等の理由は除く。</p>	ない ときどきある ある
5-5 買い物	介助の方法	<p>食材、日用品について、品物を選び・棚から商品を取る・代金を支払う、一連の行為のどこに介助を受けているか。 本人も介助者も買い物をしている場合は、頻度の多い方で選択する。</p> <p>買い物に必要な行為への確認、指示、声掛けを行う メモを渡されて本人が買い物をする 「見守り等」</p> <p>買い物の一連の行為の一部に介助が行われている 「一部介助」</p> <p>介助者が見つくろって買う 入院、入所中で病院や施設が食材、日用品を一括購入する「全介助」</p>	介助されていない 見守り等 一部介助 全介助
5-6 簡単な調理	介助の方法	<p>炊飯・加熱（あたため）・即席めんの調理に介助が行われているか。 本人も介助者も簡単な調理を行っている場合は頻度の多い方で選択する。</p>	介助されていない 見守り等 一部介助 全介助